

# 新規就農し法人設立

さいたま市の  
サカールさん

# トウガラシに特化 多品種と有機栽培

【埼玉】さいたま市のサカール祥子さん(46)は、2021年に新規就農。都市部に広がる見沼田んぼでトウガラシを栽培している。

以前は農福連携を行うNPO法人で働いていたサカールさん。障がい者を対象とした農業体験を行うなど、多様な人材が関われる農業に大きな魅力と可能性を感じていた。

コロナ禍で環境の変化もあり、自身も含め、より多くの人が農業を通じて豊かになれる場所を作りたいと考えるようになった。また、学生のところから関わってきた見沼田んぼを、農地として活用することで保存していきたいという思いも大きく

なっていた。

そして、同じ志を持った女性3人で21年に「同十色」を設立した。サカールさんは代表を務め、それぞれの強みを生かしながら、販路開拓や農業体験イベントの企画運営、地元高校との加工品製造などを行っている。

当初はさまざまな野菜の栽培を試みたがうまくいかなかった。利益を出すためには周りと差異化を図り、潜在的な需要がある作目が良いと考え、トウガラシに特化したという。栽培技術が未熟だったため、独自に研究を重ね、地域の農業者や専門家に相談にいくなど精力的に動き回った。

農地や農機具、ハウスの確保にも苦労したが、前職での活動や一生懸命な姿勢が理解され、地域の人が支援してくれた。

「就農してから失敗ばかり」と話すサカールさんだが、「辞めなければ成功への過程!」と前向きだ。

トウガラシへのこだわりは多品種と有機栽培。世界に3千品種以上ある

といわれるトウガラシの中からニーズに合わせて、40から50品種を栽培する。また、有機栽培をするのは、見沼田んぼの生態系を守りたいという思いから。「夏場の草刈りはとても大変」と笑顔で話す。

今後の目標は「今より多くの人を雇用できるようになつて、みんなが輝ける場所を作ること」。社名に込められた思いを実現するため、サカールさんは挑戦し続ける。



新設ハウス前でサカールさん(右)と十色メンバーの釘宮<sup>カミ</sup>葵さん